

報告者 日本貿易振興機構 香港事務所 小林 勇介

（件名）香港における日本の食・観光情報の発信について

香港では、日常的にネット、テレビや雑誌など様々な媒体で日本の食や観光情報が紹介されていますが、新型コロナウイルスの影響で自由に日本に旅行できない現状下では、今まで以上に日本に関する情報へのニーズは高まっているようです。

2005年に創刊され、香港で約10万部を発刊している週刊誌「U-Magazine」では、そうしたニーズの高まりを受けて、「香港内で日本を感じることができる場所」をテーマに特集が組まれました。香港に居住する日本人が選ぶ、香港内で日本を感じることができる観光スポットや、レストランを紹介するという企画からは、日本の商品や日本食が数多くある香港で、いかに「本物」の情報が求められているかが伺えます。

取材を受けた際には、香港で北海道を感じることができる場所として、スープカレーや石狩鍋を提供する飲食店を紹介しましたが、編集者から「味は北海道内で食べるものと比べて同じかどうか」などの質問が寄せられたことから香港市民の関心がどこに向いているのか、窺い知ることができました。引き続き、様々な媒体を活用した積極的な情報発信に努めます。



<U-magazine の表紙>



<紙面の様子>

（件名）香港で人気を集めている飲食店について

香港には、飲食店が約1万8千店舗あり、日本食も含めて様々な国の料理を楽しむことができますが、最近、ベーカリー&カフェの形態の店舗が香港市民の人気を集めています。

香港島の中心部に位置する湾仔（ワンチャイ）エリアにある、香港の5つ星ホテルで長年パティシエを務めた方がオープンさせた店舗では、朝の開店時間から持ち帰り用のパンを買い求める香港市民の行列ができています。香港のオフィスワーカーは朝食をオフィスで簡単に済ませる方も多く、そうした習慣を背景に、有名パティシエの作るパンが手軽に食べられるという点が香港市民の間で人気となっているようです。同店は今後、二号店の開店も予定しており、世界中から品質の高い食材を求めているとのことですので、北海道産の食材が採用される可能性も大いに感じました。この店舗に限らず、街中を歩いている中でも、特にベーカリー&カフェの形態の店舗が香港市民で賑わっている様子を見る機会が多く、コロナ禍で飲食店舗への各種制限などがある中においても、香港市民の旺盛な消費意欲を感じることができます。引き続き、こうした最新の香港のトレンドについて情報収集し、紹介して参ります。



<朝からパンを求める人で長蛇の列>



<店内も毎朝大賑わい>